

# きのくにコミュニティスクール

～さらなる ステップアップのために～



和歌山県教育庁 生涯学習局生涯学習課 課長 田中 いずみ

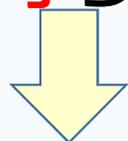
# Contents

- 1 きのくにコミュニティスクールの導入
- 2 県立高校にコミュニティ・スクールを導入するねらい
- 3 現状と課題
- 4 コミュニティ・スクールのこれから

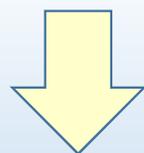
## きのくにコミュニティスクール

きのくに共育コミュニティ(10年間)

(大人も子供も共に育ち合う) という基盤が充実



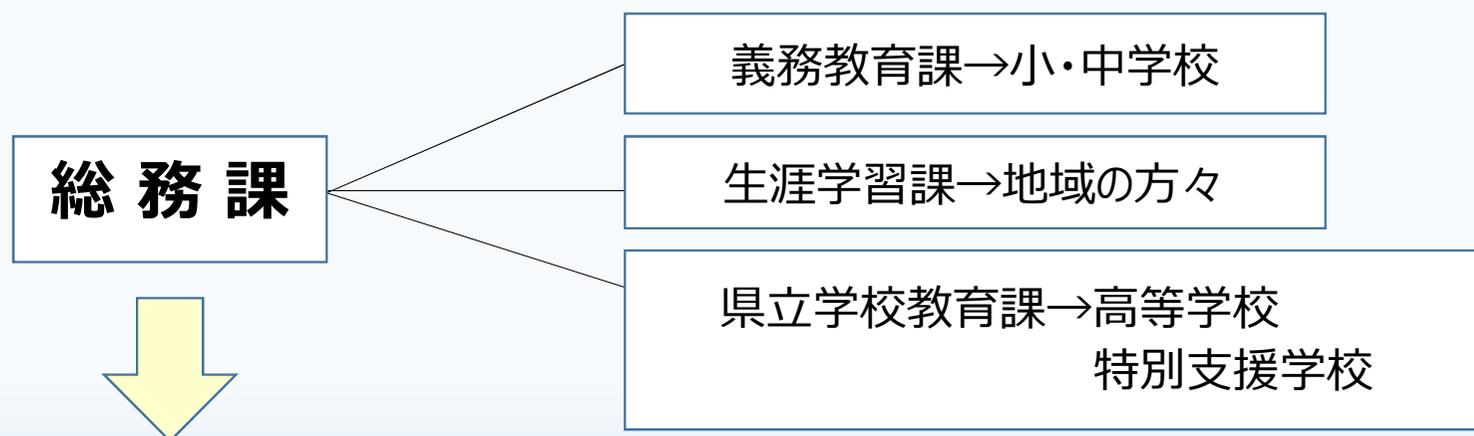
H20年度に全30市町村に学校支援地域本部が設置され、学校を地域が支える風土が構築されている



すべての公立学校をコミュニティ・スクールへ

平成29年度から3年間で県内すべての公立小・中・高・特支学校において100%導入（和歌山県新政策に）

**【組織】※総務課にコミュスク主幹(1名)を配置し3人体制で**



- ・**県立学校長、全30市町村教育長を訪問**
- ・**研修会の充実（年間19回開催・文科省CSマイスター制度活用）**  
（小・中・高・特別支援・行政・地域住民等が参加する枠を超えた研修会）

# 県立高校にコミュニティ・スクールを導入するねらい

※ 平成30年度 全県立学校に100%導入

- ◆ 少子化が進み高校の存続が問われる今、  
高校がどのようにして地域とつながり、高校を盛り上げていくのか
- ◆ 今後の高校、地域の在り方について、学校運営協議会で議論
- ◆ 高校の存在価値について地域とともに考える事で、高校が進化

⇒ **高校と地域とのつながりがこれまで以上に必要**  
(地域に高校がある事で、地域活性化が期待)

⇒ **コミュニティ・スクールとして、県立高校の再編等に対応することができる**

## 平成30年度 全県立学校に 100%導入に向けて

### H28年度

H29年度和歌山県新政策の1本が  
「コミュニティ・スクールの推進」に決定  
(県知事→県教育長→関係課長に)

1月～2月

・総務課・生涯学習課・義務教育課の  
3課長で30市町村教育長を訪問・説明

1月

H29. 6月から県立学校6(高校5.特支1)  
校をコミュニティ・スクールとすることを決定  
(和歌山県を6エリアに分け  
地域活動が盛んな学校を選出)

### H29年度

4月

・総務課を主管課として推進(生涯・義務・県立)  
・和歌山県学校運営協議会規則制定  
・「きのくにコミュニティスクールのつくり方」冊子作成  
・市町村教育長会・県立学校長会・事務長会に説明・依頼

5月～7月

・30市町村教育長・すべての県立高・特別支援学校長・  
事務長を訪問・説明・依頼

6月

・和歌山県学校運営協議会の運営に関する要綱策定  
・県立校6校をコミュニティ・スクールに指定

8月

・Q A作成、書類ひな型作成・予算に向けての調査

9月～3月

・学校運営協議会等の立ち上げ支援・財政課との予算協議

1月

・学校運営協議会委員提出・決定・委嘱状作成

## 県立校訪問時、特に多かった質問

小中学校は地域がわかりやすいけど、高校で地域はどう捉えたら良いのか？

自由です。校長としてどのような学校を作りたいのかで地域のとらえ方は変わります

授業の中で地域の方と一緒に活動をしているので必要性を感じない

1教科・1先生だけの取り組みではなく組織的に継続する事が必要です

農業高校や工業高校は、やりやすいけど普通科高校では難しい

普通科高校としての特色ある学校作りを基本にコミュスクを考えてほしい

すぐ近くに他の高校があるので、学校運営協議会委員の取り合いになる

その方がOKなら大丈夫です。CSで何をしたいのかは、どのような方を学校運営協議会の委員に選ぶのかで決まります

コーディネーターをどのようにして探すのか？

新たに探すのではなく、学校運営協議会委員の中から役割を担ってもらう人に依頼する方法もあります

## 高校がCSになり良かったこと

市町村の首長部局との繋がりが強化

高校が動くことで、市町村も動く、そして何か  
が変化する

小・中・高・特支の横の繋がりができ、CSを  
ツールにした町づくりに発展

町としてのCS構想を持ち、校種間連携をす  
ることのでぶれない縦軸ができる

生徒が主体者として関わることで、地域から  
高校に対する信頼度がアップ

今まで受け身だった子供達が、今度は誰かの  
ために何かをする立場になることで主体性が  
育つ

県教育委員会の本気度が伝わった

一番難しい県立高をすべてCSにするのなら、  
小・中もやる。県立高と繋がりたいと思ってい  
た（市町村教育長）

## コミュニティ・スクールを導入することにより得られる効果

### 【大事なこと】

- ・校長のビジョン、リーダーシップ
- ・地域のとらえかた
- ・校種間連携

- 地域の小中学生に学習支援等を行うことで地域とつながり、生徒自身に地域愛が生まれる
- キャリア教育の円滑な運営(地域なくしてキャリア教育はできない)
- 高校生が自ら行動、参画し地域のために役割を担う
- キャリア教育を受けることで、地元就職し貢献(若い力)
- ふるさと愛を育む事で、ふるさとに貢献(ふるさと納税など)

## 和歌山県がめざす子供像

「この地域で育ってよかった」と思える子供

地域社会を支えようとする意欲あふれる子供

ふるさとに愛着を持てる子供

ふるさとの未来を託せる子供

# コミュニティ・スクールが進んでいない 普通科県立学校



学校運営協議会において熟議がない△△高等学校の場合

## ＜学校運営協議会の概要＞

- 1 年間3回の学校運営協議会の開催
- 2 開催時間1時間程度（事前協議なし）
- 3 実施内容
  - ・ 学校運営の基本的な方針の承認
  - ・ 授業視察
  - ・ 本年度の総括

展開

- 1 評価委員会の延長？ → 当事者意識の欠如
- 2 学校運営協議会での協議題の事前協議なし  
→ 学校主導の学校運営協議会
- 3 実施内容が設置当初から変更なし  
→ 学校運営協議会委員の役割が不明瞭  
→ 継続的な取り組みがない

# コミュニティ・スクールが進んでいる 普通科県立学校



学校、地域課題が明確な〇〇高等学校の場合

## <学校運営協議会の概要>

- 1 年間4回の学校運営協議会(臨時もOK)
- 2 開催時間2時間程度 (事前協議あり)
- 3 実施内容
  - ・ 学校運営の基本的な方針の承認
  - ・ キャリア教育支援授業の実施について
  - ・ 教職員のための校内研修について
  - ・ 講演会の実施
  - ・ 1年間のまとめ及び来年度に向けて

展開

- 1 定期的な学校運営協議会  
→ 学校への理解が深まる
- 2 学校と委員が事前に協議題を検討  
→ 当事者意識を持って熟議を行える
- 3 学校運営協議会が主催する事業を展開  
(キャリア教育支援授業、教職員のための校内研修、生徒向けの講演会 など)  
→ 学校や地域課題の共通理解  
  
→ 教職員の理解を促す機会を設けることで、学校運営協議会について理解が深まり、一体的推進が期待できる

## 普通科高校と職業学科高校のコミュニティ・スクールの状況

普通科高校と職業学科高校では、コミュニティ・スクールの進み具合に大きな差がある（職業学科 $\geq$ 普通科）

なぜ？

- ✓ 工業・農業・商業等の職業学科高校では、地域の企業や地域住民と強固につながることで、生徒たちの将来（就職先など）に大きくかわる
- ✓ 商業まつりや農業まつりなど、地域の方たちに高校のことをわかってもらえる機会がある
- ✓ 普通科高校では、学校から地域に対してのアウトプットが乏しい

コミュニティ・スクールを活性化させるためには、高校からのアウトプットが重要

## 和歌山県の現状

- ✓ 少子化・過疎化の進行
- ✓ 学校に高校生が残らない
- ✓ 学校、地域がともに疲弊
- ✓ 学校の規模が縮小
- ✓ 高校と地域のつながりが希薄化
- ✓ 地域から高校が消えるという不安

## コミュニティ・スクール全体に対する「和歌山県」としての課題

- 学校運営協議会の活性化（部会形式等）
- 教職員の理解促進
- 学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的推進
- 学校運営協議会委員の人選⇒熟議のテーマ設定

## 「県立高等学校」としての課題

- 校長が地域をイメージできない  
⇒ 管理職のリーダーシップ
- 的確な目標設定  
⇒ 目標の共通理解(教職員・学校運営協議会委員)

## コミュニティ・スクールのこれから・・・に向けての戦略

- ①和歌山県CSマイスター派遣事業を実施  
(8分野からのマイスターを派遣→学校、市町村からの依頼に対応)
- ②きのくにコミュニティスクール推進協議会から県民に向けての発信
  - ・学校運営協議会の活性化
  - ・コミュニティ・スクール意識調査の実施
- ③積極的な広報活動
  - ・HPやリンクの活用、テレビ番組制作・ラジオ放送の活用、広報誌作成
- ④きめ細やかな後方支援（市町村・公立学校・学校運営協議会）
- ⑤事業間の横の繋がりを見据えたコミュニティ・スクールを提案
  - \* 子供の居場所づくり事業、家庭教育支援、放課後等子供教室など

きのくにコミュニティスクールの充実にむけて

# CSマイスター派遣事業

R2.9～積極的な活用を行っています！

「きのくにコミュニティスクール」を進めるための助言やサポートを受けられます！



伊藤 松枝 氏  
★読書活動推進



上羽 寛 氏  
★学校・地域・  
公民館の連携



大谷 裕美子 氏  
★文部科学省  
CSマイスター



下田 喜久恵 氏  
★管理職としての  
CS推進



上田 さとみ 氏  
★家庭教育支援



大浦 俊一 氏  
★高校と地域の連携



岡本 公博 氏  
★共育コミュニティ



森 博司 氏  
★地域学校協働活動

# きのくにコミュニティスクール推進協議会

\* 和歌山県社会教育委員会議の専門部会として設置

「きのくにコミュニティスクール推進協議会」の今期テーマ

～ **きのくにコミュニティスクールの発展・充実期を  
より豊かなものにするために** ～

〈主な協議題〉

- 学校運営協議会における部会の在り方について
- 教職員の理解促進について など

夏休みを活用した小学生への科学実験教室  
(和歌山県立橋本高等学校)



地域の用水路清掃  
(和歌山県立熊野高等学校)



ご静聴ありがとうございました